

(別紙)

令和元年度農林水産祭むらづくり部門 天皇杯及び農林水産大臣賞受賞 「進取の精神で取り組むむらづくり」(伊江村字西江上区)

1 地域の概要

伊江村は、人口約4,600名、面積23km²の1島1村である。在日米軍の伊江島補助飛行場の面積は島全体の35%を占めている。

西江上区は、島の中央やや北側にあり、人口約670名、農家戸数約140戸であり、島の中でも農業が盛んな地区である。



西江上区の位置



海から見た伊江島

2 生産活動の特色

伊江村は第一次産業を主体とし、村生産額の46%を占めている。公共事業により整備されたため池及び地下ダムを水源として、さとうきび、花き、葉たばこ、野菜(とうがん、かぼちゃ、島らっきょう等)の生産や畜産が営まれている。



輪ぎく



葉たばこ

昭和54年以前、伊江村の農業生産額は15億円程度で、農家1戸あたりの所得は160万円程度にとどまっていたため、「天候に左右される農業からの脱却」による農業所得の倍増と若者に魅力ある農業を目指し、地域・区・村が一体となり、昭和55年度から水確保対策事業と農業経営構造対策が、平成16年度からは国営かんがい排水事業が行われ、ため池及び地下ダムを安定的な水源とした農業が展開されるようになった。

西江上区は、伊江村におけるかんがい農業の先駆けとして、高収益農業を展開しており、現在では、花き、肉用牛、葉たばこに加え、特に収益性の高い作物として輪ぎくを導入している。

近年、花き栽培に従事するUターン新規就農者と葉たばこ農家の後継者が増加し、農業に活気が出てきており、村内人口も一時期の減少傾向からほぼ横ばいとなってきている。

その他、伝統芸能やスポーツが盛んであり、近年では、県内外からの修学旅行などを対象とした農林水産業体験型の民泊も盛んに行われている。



西江上区の伝統芸能



修学旅行生の見送り

3 地域づくりの特色

西江上区がある伊江村は、第一次産業主体の農村であり、歴史的背景を受け、離島苦、水不足問題、戦災、基地問題等、苦境を耐え忍んできた歴史があり、伊江村の「イーハッチャー」（負けん気性、進取の気性）の気質でむらづくりが進められている。子供から高齢者まで地域が連携したむらづくりが行われており、島独自の組踊りなど伝統行事が多く受け継がれている。

農業用水の確保による高収益農業の発展を図ることで、地域の所得の向上、担い手の確保、定住促進が進められてきた。

一方で、島に高校がないため、ほとんどの子供が中学校卒業とともに島を離れる。西江上区子供会では、区内の中学生を対象に3年に1度、富士山登山を行い、地域での思い出づくり、連帯感、自治意識の醸成に繋げている。



西江上区の農産物



中学生の富士山登山

以上の西江上区における取組は、農業用水の確保をはじめとした農業の発展を図ってきた先人たちの“イーハッチャー”気質を継承しつつ、創意工夫を重ねて地区の発展を図り、担い手、後継者等が確保できる農業の振興・発展を実現させている。また、地域内の各団体が縦横の連携を図りながらむらづくりに取り組む西江上区は、地域の中心としてその活性化に大きく貢献しており、優良事例として高く評価されたものである。